

保育闘争委員会ニュース 公的保育を守り拡充させよう

2012年
5月22日(火)
第73号

発行 = 東京自治労連保育闘争委員会 Tel.03-5940-7951 Fax.03-5940-7957 honbu@tokyo-jichiroren.org

目黒、民間保育園訪問

「新システムは死活問題」「保育環境悪化」 「公立は認証にとっても大事な砦」

目黒区では、5月8日公立保育園元保育士2名で目黒区内の保育園を訪問。保問協参加(1園)以外の私立3園、公設民営園3園、民設民営園1園、認証保育所2園、家庭福祉員(保育ママ)1名の10か所を自転車で3時間以上かけ駆け回りました。

持参したのは、5.13保育フェスティバルチラシ、署名用紙、6月2日保育学習会の案内チラシ。施設訪問は昨年から数えて3回目なので、園長たちとも顔見知り。訪問を一緒にした元保育士は、区役所の「権利擁護」の仕事もしていたことから、施設長とも仕事を通じた関わりもあったことで率直な意見を聞くことができました。

民設民営園は、兵庫からの参入なので「目黒保問協とは…」の説明を行った後、訪問目的を伝えました。署名はむずかしいか?と聞いていたら、「昨年の署名を各クラスの前においているが、保育士も保護者も関心が薄くてね」と私立の園長の反応。取り組んでいてくれたことに感激。「新システムになったら私立は死活問題ですよ」と言っていました。

また、公設民営の園長も「新システムは反対。保育環境の悪化につながる」と。認証の1ヶ所は元公立の退職した園長が「うちの子どもたちも目黒の子ども、保育の質をよくしたい、保育士の質もよくしていきたいと思って園長を引き受けた。新システムは反対。公立の存在は認証にとっても大事な砦。公的責任を守っていかないと」という意見に思わず握手。

繰り返し訪問することを通じて、目黒の保育を守り、向上させていこうという思いを共有しあえる、繋がっていくことは大事だと痛感しました。

5月13日は公立保育園19園全園から子ども、夫・家族と共に参加。区職労、OBも含めて70人以上が参加しました。目黒保育問題協議会の仲間と共に最後まで元気にシュプレヒコールをして道行く人達にアピールしました。ずっとパレードを仕事に見ていた若い男性が、「新システムってなんですか?僕も子どもがいるので…」と訊ねてきて、しばらくいっしょに歩いてもらい説明をしました。これからも世論に訴える行動をしていくことが大事だと改めた感じました。

ピジョンハーツの実態告発に大反響

5月13日明治公園、「署名しますよ～」ピジョンハーツ争議への支援ブースには署名のための列ができました。

明治公園で開催された「いりません!保育を産業化する子ども・子育て新システム みんなの保育フェスティバル」の集会ステージ上では、中野区の指定管理園ピジョンハーツ(株)が行っている保育実態の報告に会場から驚きの声がおこりました。現在パワハラ問題等で裁判をたたかっている原告の荒木さんが「個々を大切にしたい保育よりも、会社のマニュアルが優先され、方針に従わなければ解雇される…中身は新システム先取りの保育園」と実態を告発、南さんは「儲け優先の企業では、子どもの発達保障は無視される。そんな新システムは絶対反対です」と訴えました。その後は「署名に協力します」と争議支援のブース前は人が集り、約3時間の間に500筆を超える署名が集り、大きな反響をよびました。また、「非正規保育士さんの悩み相談コーナー」では、保育ユニオンに相談がありました。集会後のパレードは黄色の風船と「新システムは『もお～』いりません!」と

牛の着ぐるみでアピールしました。

公共一般墨田支部では、区職労と共に宣伝行動に参加しました。

5月16日（水）には、大塚駅頭で公共一般保育ユニオン独自で宣伝活動。5名で45分の間に11筆集まりました。「幼保一体化は知ってるけど新システムになると、はじめて聞いた」との声もあり、まだまだ広めていく必要性を感じました。

品川 駅宣、地域懇談会で奮闘

品川区職労全体で「保育対策委員会」を設置したもとの、品川区職労保育園部会は、署名活動や学習会、駅頭宣伝等「新システム反対」の運動を取り組んできました。

5月14日（月）には福祉保育労南部支部と共同して、大井町駅頭で「子ども、子育て新システム反対」の署名活動を行いました。子ども連れの組合員やOBも含めて全体で30名ほどの参加で、道行く人に、「保育の市場化は許さない！」「待機児童の解消は、正規の保育士の採用で！」「子供と向き合い、保育内容を豊かに！」「安心安全な保育園を！」と署名を訴え、風船を配りました。1時間ほどの宣伝でしたが、「以前、保育園に勤めていた。やっぱり公的に保障されるべきですね」と快く署名に応じてくれた人もいて励まされました。

5月20日（日）に、保育園部会が正式会員になっている「旗の台・中延地域子育て懇談会」が地域の様々な団体の人たちと実行委員会を作り、作家のあさのあつこ氏を招いて、「親と子のバッテリー」と題した講演会を開催しました。講師の子育ての経験を通して参加者の疑問に答えるトークライブは笑いや共感の声で会場が包まれ、地域の子育て力を育てる取り組みとなりました。

今後保育園部会は新人職員の組合加入を進めるため、6月15日（金）には「新人歓迎会&実技講習会」をクリーミーメロンパンを講師に招き行う予定です。

板橋 4ヶ所で327筆署名集約

板橋区職労保育園分会は、「子ども・子育て新システム」撤回を求めるビラと署名を保育園の門前で保護者に配布しています。

5月19日（土）には、区内の4地域（中宿・成増・西台・高島平）に分かれて、一斉に地域宣伝行動を実施。福保労、父母連、保問協も参加してくれました。

土曜日の昼間、天候にも恵まれ、風船を配りながら、道行く人や買い物途中の親子連れに署名の協力を呼びかけました。

初夏を感じさせる暑い日ざしの中でしたが、自転車を止めて署名してくれたり、道の反対側からも来てくれたり、1時間ほどの宣伝でしたが327筆集めることが出来ました。

そしてまだ取り組めてない私立保育園への働きかけも計画しています。

これからも一人でも多くの人に「新システム」について知らせていきたいと思います。

【傘下の組織や保育関係者に配信・配布してください。配信希望者は氏名と所属、「保育闘争委ニュース希望」と明記し、パソコンよりメールでお申し込みを。内容を圧縮した「携帯メールニュース」は携帯からメールでお申し込みを】